

日本ヴァージニア・ウルフ協会出版第三弾出版企画  
『ヴァージニア・ウルフ小百科（仮題）』項目執筆応募要項

出版企画ワーキンググループ

いまから約2年後の2025年5月14日は『ダロウェイ夫人』出版100周年として、世界的にもさまざまな記念行事やイベントの開催が予想されます。この時期にあわせて、日本ヴァージニア・ウルフ協会の記念出版事業として、『ヴァージニア・ウルフ小百科』（仮題）案を企画することが、2022年度の年次総会にて決定されました。

ウルフ作品は2010年代以降、『自分ひとりの部屋』（2015）、『三ギニー』（2017）、『幕間』（2020）、短編『ある協会』（2019）、『フラッシュ』（2021）、『波』（2021）など新訳が出版され、さらには松田青子『英子の森』（2014）のような翻案小説も登場しています。また、2020年代にはいって、#MeToo運動を契機としたフェミニズムへの新たな関心の高まりもあり、一般メディアにおいてヴァージニア・ウルフの認知度が広がっています。

このような状況を鑑み、今回の企画においては、ウルフ作品および関連分野の研究に打ち込んできた本協会の会員の専門知を一般にひろく知らせる機会として、「百科」的な書物を編集・刊行することを目指します。本協会ではこれまでに論文募集・査読・選考のプロセスを経て、『転回するモダン』（2008）と『終わらないフェミニズム』（2016）という二冊の論文集を刊行してきました。本企画においても、その方針を踏襲してクオリティを保ちつつ、しかし、百科の項目執筆というかたちで、できるだけ多くの会員にご執筆を担当いただきたいと願っております。

とくに、今回の企画では、読者が本書を読んだ後に、次の読書につながるような本を作っていきたいと考えています。具体的には、現代・社会を生きる読者を見据えて各項目をご執筆いただきます。現代・社会のとらえ方はさまざまですが、たとえば、人文科学系学部をとりまく今日の日本の状況を見てみましょう。大学入学者数は全体としては増加する一方で（2000年60万人弱、2021年約62万7千人；[https://www.nistep.go.jp/sti\\_indicator/2022/RM318\\_32.html](https://www.nistep.go.jp/sti_indicator/2022/RM318_32.html)）、人文科学系入学者数については、2000年は約9万8千人だったのが、2021年には約8万4千人に減少しています。少し古い数字になりますが、学部改組などにより、1999年度から2004年までの5年間に私立大学文学部（昼間部）の学部数は111から98へと1割減少し、学生定員も4万9千人から4万人へと2割減少しました(<https://www.shidaikyo.or.jp/riihe/research/174.html>)。他方、「役に立つ学問」という表現もよく耳にします。では、文学は役に立つのでしょうか。数値化されていない何かを思考するのに文学は役に立つ、あるいは、このような短絡的な問いに意味はない。そもそも、このような議論で考えるべき「文学」とは何を指すのか。それが **English literature** を指すのだとしたら、それを何と呼ぶのか。英文学、英語圏文学、あるいは、英語文学なのか。さまざまな答えを会員の皆様それぞれがお持ちだと存じます。それが、どのような回答になるにせよ、本小百科の項目の執筆を通じて、本書を手取る読者に、こうした問いを思考することの重要性が伝わるように書い

ていただきたい、というのが、出版企画ワーキンググループ一同の願いです。私たちが読む／書くテキストがどのようなアクチュアリティを持つのか、また、ウルフ研究および関連分野の研究が現代・社会あるいは日本に生きる私たちにどのような意味を持つのかをご検討いただき、読者と問題を共有するような形で、項目をご執筆ください。

つきましては、下記のとおり、登録制という形で執筆希望者を応募いたします。ご応募にあたっては、(1)本企画は協会としての成果を出版するという性質上、査読のうえ掲載の可否が決定されること、(2)必要に応じて出版企画ワーキンググループから修正依頼があること、(3)希望者の皆様には応募時点で執筆希望項目をお申し出いただきますが、必ずしもご希望に添えない場合があること、以上の三点をご理解ください。

項目執筆応募の締め切りは、2023年4月末日となります。下記を熟読のうえ、お申し込みください。みなさまのご応募を心よりお待ちしております。

### 1. 応募条件

- (a) 本協会の会員であること。
- (b) 本要項を熟読していること。

### 2. 執筆内容（執筆者の分担）

#### (a) 1項目あたり 3,000-6,000 字程度

- \* 担当項目の通知の際に、執筆要項を送付する予定です。
- \* 項目あたりの長さに応じて、複数の項目執筆をご依頼する場合がございます。
- \* 下記の「6. 目次案」(2)～(5)にある「動物表象」、「John Maynard Keynes」「他のメディアへのアダプテーション」の項目については出版企画ワーキンググループで作成し、サンプル項目として2023年8月初旬に送付する予定です。

#### (b) 項目の理解を助ける図版を項目毎に原則1つ

- \* 初稿の投稿段階では図版の提出は必須ではありません。
- \* 本文と同様に使用する図版は最終的には出版企画ワーキンググループが決定します。
- \* 限られた予算のため、できる限り著作権料のかからない図版をお選びください。出版社とともに著作権料の有無を確認する予定です。著作権料が発生する図版をお選びいただいた場合は、差替をお願いする場合があります。

### 3. 本書の想定読者

- (a) ウルフ研究の初学者（英語文学系の大学学部生・修士学生）
- (b) 教養としてウルフ・英語文学・フェミニズムに関心のある大学生（英語文学系以外の大学生）

- (c) 学生以外の一般読者（教養としてウルフ・英語文学・フェミニズムに関心のある人、読書習慣のある人、外国語文学を読んでいる人）

#### 4. 執筆スケジュール予定

2023年	4月末日	執筆応募締め切り
	5月末日	執筆応募者への担当項目の通知
	6月末日	執筆承諾の締め切り
	8月初旬	サンプル項目の送付
2024年	1月8日(祝日)	原稿提出締め切り
	4月末日	査読結果（掲載の可否・修正依頼）
	7月末日	第一次修正締め切り
	12月末日	入稿
2025年	1月～5月	校正
	5月14日	出版

5. 応募方法：下記の URL を経由してお申し込みください。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdQ0gAYvOCawyWFOcdjzlwEG8iSXJWe88nClw1aoxNpg8g5A/viewform>

- (a) お名前  
 (b) 連絡先（メールアドレス）  
 (c) ご所属  
 (d) 執筆希望項目（下記の「6. 目次案」(2)～(5)の項目リストから執筆を希望する3～5項目をお選びください。公平性を期すために必ず3項目から5項目の範囲でお選びください。）  
 (e) 任意：(d)で選択した項目についての構想。  
 (f) 執筆希望項目以外の項目の執筆を（希望する・希望しない）。  
 (g) 応募締め切り：2023年4月末日（厳守）

#### 6. 目次案

- \* 下記(2)～(5)の項目はすべて順不同。今後、掲載順を決定します。  
 \* 下記(2)～(5)の項目はすべて今後の編集過程で変更の可能性があります。

- (1) ヴァージニア・ウルフとは誰か？  
 (2) ウルフ作品紹介編

<b>【ウルフ主要作品】</b>
1. <i>Voyage Out</i>
2. <i>Night and Day</i>
3. <i>Jacob's Room</i>
4. <i>Mrs Dalloway</i>

5. <i>To the Lighthouse</i>
6. <i>Orlando</i>
7. <i>The Waves</i>
8. <i>The Years</i>
9. <i>Between the Acts</i>
10. <i>Flush</i>
11. <i>A Room of One's Own</i>
12. <i>Three Guineas</i>

## (3) 批評／研究キーワード

\* ウルフの短編・その他エッセイを含めて書いていただく予定です。

13. モダニズム／モダニティ
14. フェミニズム
15. 政治
16. セクシュアリティ
17. 教育
18. 精神分析
19. 動物性・動物表象
20. 病：スペイン風邪、パンデミックなど
21. 戦争
22. 写真（キャメロン夫人）
23. 優性思想・ダーウィニズム
24. ライフライティング
25. 老い／若さ
26. 身体
27. ブロウ(highbrow, middlebrow, lowbrow)
28. ケンブリッジ大学 (Oxbridge)
29. モーリー・コレッジ(Morley College)
30. イギリス (UK, England, Britain...)
31. 家／家庭／土地(domesticity)
32. 階級
33. 宗教
34. 音楽

## (4) アダプテーション・日本での受容

35. 英語圏でのアダプテーション：例えば Michael Cunningham の <i>The Hours</i> や Ian McEwan の <i>Saturday</i> など。
--

36. 日本でのアダプテーション・評論：例えば松田青子『英子の森』、『可愛いウルフ』など。
37. 他のメディアへのアダプテーション：例えば映画『オルランド』(1993)、あるいは、バーバリー(2016)などのファッションなど。

## (5) 関連人物編

38. E. M. Forster
39. Katherine Mansfield
40. Elizabeth Bowen
41. Roger Fry
42. Clive Bell & Vanessa Bell
43. Leslie Stephen & Julia Stephen
44. Leonard Woolf
45. John Maynard Keynes
46. Q. D. Leavis & F. R. Leavis
47. Vera Brittain
48. Winifred Holtby
49. Radclyffe Hall
50. Iris Murdoch
51. Duncan Grant (オメガ工房)
52. Vita Sackville-West
53. Lytton Strachey
54. Eileen Gray
55. Pankhurst (Emmeline, Christabel, Sylvia)

## (6) 読書案内

## (7) ウルフ書誌

## (8) ウルフ略年譜

## (9) 参考文献